

事業番号	15 05 03	事業改善シート (29年度実施事業分)	□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検
事業名	探究的な学びの推進事業費	部局	教育委員会事務局
		課・室	教学指導課
		実施期間	H7 ~
		E-mail	kyogaku@pref.nagano.lg.jp
しあわせ信州創造プラン(総合5か年計画)			
プロジェクト	8 教育再生プロジェクト 1 次世代産業創出プロジェクト 5 雇用・社会参加促進プロジェクト 7 活動人口増加プロジェクト		
施策の総合的展開	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 1 未来を切り拓く学力の育成 2 信州に根ざし世界に通じる人材の育成		

1 事業の概要

現状 (予算編成時)	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化が一層進展し、異なる文化を持つ人々と協力して課題を解決していくために、外国語によるコミュニケーション能力に加えて長野県の歴史文化への理解を深め、世界で活躍できる人材の育成が求められている。 全校種において教員のICT機器を活用した指導力を高めるための研修を充実する必要がある。 現学習指導要領の趣旨である21世紀型学力を向上させるため、県立高校において、時代と生徒のニーズに合った教育課程の編成が求められている。 	29年度 決算額	480,858 千円
		職員数	11.70 人
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 学校の枠を越えて、海外学生との交流や多様な経験を積む機会が県内各地域で創出され、地域及びグローバルな課題について海外の高校生と英語で自由に意見交換できる能力が育成されている。 各高等学校において、現学習指導要領の趣旨に則り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するための教育課程が編成されている。これにより、すべての生徒に対して、確かな学力を保障するとともに、社会で求められる生きる力の育成や希望する進路を保障する。 <p>(主な実施内容：長野県キャリア教育支援センターの支援、SGH設置事業、外国語教育充実支援、信州学を積極的に取り組む教員の育成、県立高等学校のICT機器環境の整備、教育課程編成支援 など)</p>		

事業 コスト	区分(単位:千円)					指標及びその達成状況					
	No	成果指標	27年度	28年度	29年度	30年度	29年度			達成状況	
							目標値	成果	達成状況		
予 算 額	前年度繰越	1,154	23,003								
	当初予算	647,995	658,462	567,735	922,435						
	補正予算	-32,297		-34,174							
	合計(A)	616,852	681,465	533,561	922,435						
Aの 財源	一般財源	565,018	578,196	479,837	508,795						
	県債										
	国庫支出金	51,203	102,599	53,195	63,093						
	その他	631	670	529	350,547						
決 算 額(B)	588,910	632,893	480,858								
概 算 人 件 費	職員数(人)	11.70	11.70	11.70	11.70						
	概算人件費(C)	96,829	92,594	94,793	94,793						
概 算 事 業 費(B(A)+C)	685,739	725,487	575,651	1,017,228							
①	在学中に就業体験活動を実施した全日制高校生の割合	80.2%	90.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	達成	
②	英語コミュニケーション能力水準 中学3年卒業時に英検3級レベルを有する割合 高校卒業時に英検準2級レベルを有する割合	中学 33.7%	中学 31.0%	中学 40.0%	中学 37.0%	高校 34.4%	高校 35.5%	高校 40.0%	高校 38.8%	未達成	
③	「信州学」を実施する県立高校の割合	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	達成	
④	長野県学力実態調査(高2)における基礎学力定着度(正答率)	国66.0% 数62.1% 英61.1%	国64.7% 数59.8% 英59.6%	国65.0% 数60.0% 英60.0%	国65.1% 数60.2% 英62.0%					達成	

成果指標 設定理由	<p>①就業体験活動を通して、自らの職業観を育成し目標を持って学習に取り組めるようにするため成果目標に設定した。</p> <p>②社会のグローバル化に対応し世界で活躍できる人材となるために必要な英語コミュニケーション能力の習熟度を測定する指標として目標を設定した。</p> <p>③グローバル社会においては、自らの生まれ育った地域について学ぶことにより、主体的に生きる力の基礎となり根となる心情を涵養することが必要であり、その取組である「信州学」の実施校数割合を成果目標に設定した。</p> <p>④高校生の中には、学ぶ目的の喪失や学習意欲の欠如、義務教育段階の基礎学力が不十分な生徒が存在するため、本県が独自に実施する長野県学力実態調査を通して基礎学力の定着度を把握する必要があり成果目標に設定した。</p>
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

目標に対する 成果の状況	<p>①就業体験活動を実施した全日制高校生の割合は、各学校が自校の特性に応じた就業体験活動のねらいをしっかりと捉え、学校活動に位置付ける努力を行ったことから目標を達成した。</p> <p>②英語コミュニケーション能力水準については、生徒の英語力向上のための授業改善や研修を通じた指導力向上に教員が取り組んだ結果、中・高校とも対前年で成果は増加したものの、当初の目標には届かず未達成となった。</p> <p>③「信州学」を実施する県立高校の割合は、各学校が昨年度に引き続き活動の深化に取り組んだことから、目標達成となった。</p> <p>④長野県学力実態調査における基礎学力定着度については、非常勤講師を活用した「学び直し」の取組等により目標を達成した。</p>
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 今後の事業の方向性

今後、事業を どのようにし ていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課 題	今後の方向性
	グローバル化が急速に進展し、異なる文化を持つ人々と協力して課題を解決していくために、世界で活躍できる人材の育成が求められている。 また、21世紀型学力を向上させるため、県立高校において時代と生徒のニーズに合った教育課程を編成する必要がある。	県立高校において、PBL(問題解決型学習)等の新たな学びを導入することにより、時代と生徒のニーズに合った教育課程を編成する。 また、学校間連携や高大連携等の学びの仕組みを通じ、すべての生徒が思考力・判断力・表現力のみならず、主体性を持って多様な人々と協働的に学ぶ態度を身に付ける。 さらに、グローバルに考え、世界で活躍できる思考力を持った生徒を育成する。

3 事業を構成する細事業の内容

(単位:千円)

No	プロジェクト No	細事業名	29年度 実施内容(実績)	職員数 (人)	29年度		30年度 (当初)
					(当初)	(決算)	
1	1-3-5 5-2-2 7-1-4 8-3-1	キャリア教育推進事業費	キャリア教育支援センター総会を2回開催し、今後のキャリア教育の進め方などについて協議した。県立高等学校においては、社会的自立支援事業を推進するとともに、就業体験活動の実施を支援した。また、昨年度に引き続き、スーパープロフェッショナルハイスクール指定校の諏訪実業高校の取組支援を行った。	2.00	36,690	12,465	33,365
2	8-4-2	グローバル人材育成事業費	スーパーグローバルハイスクール指定校2校(長野高校・上田高校)において、グローバルリーダーの育成を目指したカリキュラムの研究・開発を行った。また、英語指導力向上のための研修会を継続して開催するとともに、グローバル社会において必要となるコミュニケーション能を育成するための講座を複数開催した。	1.00	240,199	214,946	221,644
3	8-3-1	「信州学」推進事業費	地域に根差した探究的な学びである信州学をすべての県立高校で実施した。また、信州学サミットを開催し、高校28校がプレゼンテーションやポスターセッション等で日頃の取組を発表した。	1.00	12,899	10,411	6,795
4	8-4-1	情報通信技術(ICT)を活用した確かな学力育成事業費	電子黒板等の整備など、ICT機器環境の充実を図り、アクティブ・ラーニングを推進するための調査研究を実施した。	7.00	78,591	50,728	454,393
5		魅力ある高校づくり推進事業費	21世紀型学力の育成や「学び直し」の実施のための非常勤講師を配置した。また、教育課程の改善を図るための研究委員会・協議会を開催した。	0.70	199,356	192,308	206,238
合計				11.70	567,735	480,858	922,435

事業改善シート附表

事業番号 15 05 03	事業名	探究的な学びの推進事業費				部局 教育委員会事務局	課・室	教学指導課				<input type="checkbox"/> 当初要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input type="checkbox"/> 補正予算案 ■点検						
		細事業No	細事業名	項目	実施方法			29年度 実施内容（予定）	29年度 実施内容（実績）	29年度 実施状況	27年度	28年度	29年度			総合5か年計画プロジェクト		県民協働事業改善
当初(千円)	当初(千円)					要求(千円)	当初(千円)				補正(千円)	決算(千円)	番号	施策の総合的展開	予算(千円)	実施年度	主な点検区分結果	
1	キャリア教育推進事業費	キャリア教育支援事業	直接	・長野県キャリア教育支援センター事業（産学官が連携したキャリア教育の推進） ・学校・生徒支援事業（カリキュラム改革の推進、社会的自立支援事業の実施、高校生の就業体験）	・キャリア教育支援センター総会を開催し、平成29年5月と平成30年2月に今後のキャリア教育の進め方について協議した。 ・社会的自立支援事業やずく出せ就業体験事業等により各校のキャリア教育を支援した。（インターンシップを実施した生徒の割合 97.3%）	計画通り ○	11,626	8,008	11,055	8,509	0	6,246	1-3-5 5-2-2 7-1-4 8-3-1	7-1,2	11,055			15-05-03
1	キャリア教育推進事業費	子育て理解教育	直接	・高校生の幼稚園・保育所での幼児触れ合い体験の実施 ・高校生の赤ちゃん触れ合い体験の実施	長期休業等を利用し、高校性の幼稚園・保育園実習や乳幼児との触れ合い体験活動を支援した。	計画通り ○	280	280	280	280	0	77	1-3-5 5-2-2 7-1-4 8-3-1	7-1,2	280			15-05-03
1	キャリア教育推進事業費	未来をつくる協働事業	直接	地域社会の課題解決に向け、地域の関係者等と連携した教科横断的なプログラムを開発し、全国に発信	坂城高校、白馬高校の2校において、地域の関係者等と連携し、実社会で活躍できる資質・能力を身に付けるプログラムを実施した。	計画通り ○	1,178	1,907	1,895	1,895	0	1,188		7-1,2				15-05-03
1	キャリア教育推進事業費	SPH（スーパープロフェッショナルハイスクール）設置事業	直接	産業教育に関する先進的な卓越した教育課程の開発・実践	諏訪実業高校において、文化ビジネスの視点から商業科と服飾科の学習に対応した地域連携を行い、ビジネス創造の実践を行った。	計画通り ○	20,201	20,361	24,506	24,506	-20,043	3,510		7-1,2				15-05-03
1	キャリア教育推進事業費	産業教育	交付金	全国及び北信越ブロックレベルの教科学習にかかわる競技会に出場する県立高校生の交通費を補助	全国高等学校簿記コンクールや日本学校農業クラブ全国大会（平板測量競技会）等へ出場した118名の生徒の交通費を補助した。	計画通り ○	1,500	1,500	1,500	1,500	0	1,444		7-1,2				15-05-03
2	グローバル人材育成事業費	スーパーグローバルハイスクール（SGH）設置事業	直接	SGH指定校の取組支援、SGH運営指導委員会	SGH指定校として長野高校・上田高校の2校がカリキュラムを開発した。年3回の運営指導委員会を両校のために開催し、事業運営を指導した他、成果の県内への普及を支援した。	計画通り ○	32,009	30,007	41,260	27,068	-12,001	14,200	8-4-2	7-1,2	41,260			15-05-04
2	グローバル人材育成事業費	発信力育成プログラム	直接	グローバルマインド育成講座、小布施サマースクール、大学生と共に学ぶ高校生の「学びの改革」推進事業、高校生との留学促進事業、グローバル語り部派遣事業	①グローバルマインド養成講座 ・JICAグローバルキャンプ（11/1～3・JICA駒ヶ根訓練所）を実施し、高校生30名が参加した。 ②小布施サマースクール ・8/13～20に小布施町で小布施サマースクールを開催し、高校生50名（県内25名）が参加した。 ③大学生と共に学ぶ高校生の「学びの改革」推進事業 ・大学生主宰団体とプラットフォーム設置に向けた準備会を発足し、準備会議を開催した。 ④高校生の留学促進事業 ・未来塾ながの in the Philippines（12/10～16）に高校生20名が参加した。 ⑤グローバル語り部派遣事業 ・大学教授、国際交流経験を持つ講師による講演会を高等学校10校で開催した。	計画通り ○	12,390	10,845	20,548	15,380	0	10,398	8-4-2	7-1,2	20,548			15-05-04
2	グローバル人材育成事業費	外国語教育充実支援事業	直接	小中高連携推進モデル研究開発、小学校英語モデル研究開発、小中高英語担当教員のスキル向上研修、外国語指導助手（ALT）配置事業	①小中高連携推進モデル研究開発 ・文科省ポータルサイトに小諸市各校の映像資料を提供した。 ②小学校英語モデル研究開発 ・小学校教諭対象免許法講習2か年事業の1年目であり、H30には72名が中学2種免許を取得予定。 ③小中高英語担当教員のスキル向上研修 ・小中高英語担当教員のスキル向上研修会（単独開催、共催を含む）を6回開催した。 ④外国語指導助手（ALT）配置事業 県立高等学校・総合教育センターにALTを43名配置した。全県立高等学校においてALTを活用した授業や個人指導等を展開した。	計画通り ○	195,596	197,848	199,334	197,751	0	190,348	8-4-2	7-1,2	199,334			15-05-04
3	「信州学」推進事業費	高校における「信州学」の推進	直接	・信州学推進委員会の設置 ・信州学を積極的に取り組む教員（信州学コアティーチャー）の育成 ・信州学サミットの開催 ・各校において地域の特色を生かした信州学の実施	・信州学推進委員会を設置し、会議を2回開催した。 ・信州学サミットでは、信州学コアティーチャーが参加し、高等学校28校がプレゼンテーションやポスターセッション等で信州学の取組内容を発表した。 ・各校において地域の特色を生かした信州学に取り組んだ。	計画通り ○			20,461	12,899	0	10,411	8-3-1	7-1,2	20,461			15-05-06

事業番号	事業名	探究的な学びの推進事業費				部局	教育委員会事務局		課・室	教学指導課				<input type="checkbox"/> 当初要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input type="checkbox"/> 補正予算案 <input checked="" type="checkbox"/> 点検			
15 05 03																	
細事業No	細事業名	項目	実施方法	29年度 実施内容（予定）	29年度 実施内容（実績）	29年度 実施状況	27年度 当初（千円）	28年度 当初（千円）	29年度				総合5か年計画 プロジェクト		県民協働事業改善		備考 (H28事業番号)
							要求（千円）	当初（千円）	補正（千円）	決算（千円）	番号	施策の総合的展開	予算（千円）	実施年度	主な点検区分結果		
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	小中学校における教育の情報化推進事業	直接	実践研究を実施し、シンポジウム等を通して研究成果を広く発信	平成29年度長野県ICTシンポジウム（兼文部科学省委託事業人口減少におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証授業）を11月13日（月）に喬木第一小学校、喬木第二小学校、喬木第一中学校で開催した。県内外から多くの参加者があり、実践研究を広めることができた。	計画通り ○	220	190	4,020	4,020	-2,130	1,929	8-4-1	7-1,1	4,020		15-05-09
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	教員のICTを活用した指導力向上研修	直接	教員養成課程を有する大学と連携した研修プログラムの研究・開発・実践	11月5日にプログラミングの成果発表会をテレビ会議で開催した。実証校で開発したアプリケーションについて、生徒がプレゼンテーションを行いながら発表した。	計画通り ○	5,090	3,803	347	347	0	347	8-4-1	7-1,1	347		15-05-09
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	県立高校における教育の情報化推進事業	直接	学習教材の研究・蓄積・公開をはじめ、校務支援システム等の整備について検討	新学習指導要領に対応するため、高校におけるICTを活用した指導改善のための調査研究を進めた。モデル校3校での教科学習における取組に加え、他の県立高等学校においても探究的な学びでのICT活用を進めることができた。	計画通り ○	11,530	11,527	9,406	9,406	0	9,335	8-4-1	7-1,1	9,406		15-05-09
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	多様な学習を支援する高校の推進事業	直接	ICTを活用した遠隔キャンパス間における多様な学習支援のための調査研究	遠隔教育について、技術面及び学習面で多くのノウハウを蓄積するとともに、遠隔教育の導入によって、専門性を持つ教員による授業や、高等学校間をつないだ生徒同士の協働的な学習の実施などの教育的効果が確認できた。	計画通り ○		4,173	2,591	2,591	0	1,449	8-4-1	7-1,1	2,591		15-05-09
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	探究学習のためのICT機器整備	直接	探究学習に必要な電子黒板・実物投影機・遠隔会議システムを整備	県立高校13校の普通教室に電子黒板や実物投影機を整備し、新学習指導要領実施に対応するための効率的な授業展開や探究的な学びでの利活用を進めた。効果検証としての生徒アンケートからもICTを活用した授業の有効性が確認できた。また、遠隔会議システムを利用して、生徒会の交流等、生徒の多様な活動につなげることができた。	計画通り ○			65,010	31,103	0	20,838	8-4-1	7-1,1	65,010		
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	学力向上のための教科学習におけるICT機器活用事業	直接	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善推進のため、タブレットパソコンを整備	県立高校13校において、1クラス分のタブレットパソコンを導入し、従来の知識習得型の学習からの転換が求められている、課題発見・解決能力を育成する「探究的な学び」で活用することができた。機器を導入した全校で公開授業を実施し、成果の普及を進めた。	計画通り ○			23,040	23,040	0	8,854	8-4-1	7-1,1	23,040		
4	情報通信技術（ICT）を活用した確かな学力育成事業費	RESASを活用した地方創生のための探究学習事業	直接	RESAS（地域経済分析システム）を活用した探究学習を行うための講師派遣等	県立高等学校13校78クラスにおいて、専門的な知識を有する委託事業者が教員と協力してRESAS（地域経済分析システム）を活用した授業を実施した（計160回実施）。効果検証としての生徒アンケートから、探究的な学びが生徒のキャリア形成や学習への主体性に対して有効であることが確認できた。	計画通り ○			15,011	8,084	0	7,976	8-4-1	7-1,1	15,011		
5	魅力ある高校づくり推進事業費	教育課程改善事業	直接	新学習指導要領の実施に伴い、新教育課程への円滑な移行を図るため、教育課程の研究を行い、周知を図る。	新学習指導要領の実施に向けた教育課程研究協議会を小中高、校種別に各地区で開催し、延べ14,362名の参加があった。	計画通り ○	4,767	5,187	4,753	4,753	0	4,711					15-05-05
5	魅力ある高校づくり推進事業費	カリキュラム編成支援事業	直接	・「21世紀型学力」の育成に係る各課題に対応するカリキュラムを実施するために必要な非常勤講師を配置 ・「学び直し」に係るカリキュラムの編成・実施のために必要な非常勤講師を配置	・各高等学校の授業改善の推進、社会参画力の育成、コース・類型・選択制の充実などの課題に対応するため、216人の非常勤講師を配置した。 ・各高等学校の学び直しによる基礎的な学力の充実のため、49人の学習支援員を配置した。	計画通り ○	100,221	100,223	100,223	100,223	0	96,237					15-05-05
5	魅力ある高校づくり推進事業費	コンピュータ整備事業	直接	普通科を置く県立高校に整備したPC及び付帯機器の保守、また、年度途中で貸借契約期間が満了する高校の機器を更新	新学習指導要領の実施を見据え、ICTを活用した教科横断的な情報活用能力の育成を図るため、普通科を置く県立高校65校のパソコン教室の整備を進めており、平成29年度は、うち11校の機器更新を行った。	計画通り ○	87,696	88,378	95,953	93,993	0	91,123					15-05-05

事業番号	事業名	探究的な学びの推進事業費				部局	教育委員会事務局	課・室	教学指導課				<input type="checkbox"/> 当初要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input type="checkbox"/> 補正予算案 <input checked="" type="checkbox"/> 点検					
細事業No	細事業名	項目	実施方法	29年度 実施内容（予定）	29年度 実施内容（実績）	29年度 実施状況	27年度	28年度	29年度				総合5か年計画プロジェクト		県民協働事業改善		備考 (H28事業番号)	
							当初 (千円)	当初 (千円)	要求 (千円)	当初 (千円)	補正 (千円)	決算 (千円)	番号	施策の 総合的 展開	予算 (千円)	実施 年度		主な点検 区分結果
5	魅力ある高校づくり推進事業費	教育課程研究指定校事業	直接	教育課程の編成、指導方法及び評価方法等の工夫改善に関する実践研究	平成28年度に阿南高等学校が教育課程研究指定校（伝統文化教育）に指定された。平成29年度は2年指定の2年目であり、4月に連絡協議会を開催し、平成30年2月に教育課程の研究成果を発表した。	計画通り ○	392	394	387	387	0	237						15-05-05
5	魅力ある高校づくり推進事業費	自立的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究事業					1,031	1,106										15-05-05
5	魅力ある高校づくり推進事業費	土曜授業推進事業						1,161										15-05-05
合 計							485,727	486,898	641,580	567,735	-34,174	480,858			412,363			